

一〇二六年一月七日

淡雪を被すき一山暮れにけり  
勝手口開ければ春の風匂ふ  
戸惑ひぬマスクの人に会釈され  
春立つや歩幅大きくウォー・キング  
風花のスクランブルや交差点

一〇二六年一月六日

震災の瓦礫の町に風花す  
袖合はす大和の嶺々や春寒し  
落つ夕日波間の鴨を影絵とす  
白梅や青磁の壺に凜然と  
朝戸くる音も軽やか春立てり  
目高瓶蓋をずらせり春立つ日  
敷き藁に春日影置く葡萄畠  
セピアなる野中に寒緋桜かな

風民  
えいじ  
あひる  
うつぎ  
ほたる  
うつぎ  
風民

一〇二六年二月四日

立春や刃に松の香の花鍊  
大太鼓追儺の鬼を煽りけり  
追儺鬼市長の豆に斃れけり  
一〇二六年二月三日

花茗荷  
明日香  
きよえ  
澄子

春光の遊ぶ川面や橋半ば  
一斉に千の手の浮く追儺式  
豆撒きの白き二の腕ズカ乙女

澄子  
うつぎ  
澄子

豆撒きの白き二の腕ズカ乙女

澄子  
うつぎ  
澄子

二〇二六年二月二日  
寒夜ふとこけしは薄眼開けてをり  
春隣山々すこし近う見え  
鴨どちの逆立ち潜るつぎつぎと  
日の枝に団子並びす寒雀

よし女  
風民  
うつぎ  
風民

よし女  
風民  
うつぎ  
風民

よし女  
風民  
うつぎ  
風民

一〇二六年一月五日

老幹の苔割り出づる芽吹きかな  
薄墨にかすむ黄砂の京盆地  
春風に誘はれウインドショッピング  
フレドから転がり出でし年の豆  
春水の煌めき落つる可動堰

立春や刃に松の香の花鍊  
大太鼓追儺の鬼を煽りけり  
追儺鬼市長の豆に斃れけり  
一〇二六年二月三日

康子  
あひる  
康子  
康子

舷を打つ波音も早春譜  
寒満月藁の波を濡らしけり  
ままごとのお皿いろいろ氷張る  
厄詣で大草鞋吊る門潜り

康子  
あひる  
康子  
康子

康子  
あひる  
康子  
康子

康子  
あひる  
康子  
康子